

事後評価シート

調査研究課題名	公的支援対象の観光資源とその認知度・魅力度に関する調査研究
担当者	主任研究官 三宅正寿、研究官 加藤隆重
①当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、観光に取り組む地域等の実態（問題意識等）と公的支援の活用状況について把握・整理するとともに、一般消費者の観光地に対する認知度・魅力度についての認識を明らかにし、地域や公的支援の実施主体に対し、さらなる公的支援の有効活用のための情報を提供するために取り組んできたものである。</p> <p>観光地に対するヒアリング調査から公的支援の活用状況、成功要因、課題等を整理、考察し、消費者や地域のアンケート調査から両者のギャップや消費者にとっての観光地の位置付け等を明らかにすることができ、当初の目的を達成することができた。</p>
②調査研究内容の妥当性	<p>地域側の調査においては、積極的に観光まちづくり取組んでおり、経験・実績のある地域の観光まちづくりのリーダー・マネージャー層に訪問ヒアリングを行い、その取組み状況や問題意識等の実態を把握した。また、各地域で複数の組織の方々から意見を聞き、偏った意見とならないよう調査を進めた。消費者アンケートにおいては、インターネット調査を実施し、各世代・地域等からの幅広いデータを収集した。</p>
③調査研究の仕組みの妥当性	<p>学識経験者・観光事業者など実際の観光まちづくりに携わったことのある有識者に調査のポイントごとに意見を聞き、的確な示唆を受けながら調査研究を進めることができた。</p>
④成果と活用	<p>研究成果を調査対象地域へフィードバックするとともに、当研究所のホームページ等で公表し、観光に取り組む地域や公的支援の実施主体等に成果を有効に活用してもらおう。</p>
⑤その他	<p>日本経済新聞 2009 年 7 月 2 日夕刊 18 面に掲載</p>